

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

熊本県 地域セミナー 報告書

2018（平成30）年8月7日（火）に、「スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」熊本県地域セミナーが開催されました。本会では、主にオリンピック・パラリンピック教育推進校の先生方を対象に、本事業の概要についての説明や他地域におけるオリンピック・パラリンピック教育の事例紹介が行われました。講演には初瀬勇輔氏（北京パラリンピック視覚障がい者柔道 90kg 級代表）が講師として招かれ、下記の要項にて執り行われました。

【開催概要】

日時：2018（平成30）年8月7日（火）14時00分～16時40分

会場：くまもと県民交流会館パレア

主催：熊本県教育委員会

参加者：熊本県オリンピック・パラリンピック教育推進校関係者 23名（小学校10名、中学校8名、高等学校3名、特別支援学校2名）、その他関係者 13名（熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、特定非営利活動法人ひとづくりくまもとネット等）

プログラム：

14:00～ 開会挨拶

熊本県教育庁教育指導局 体育保健課 課長 西村 浩二 氏

14:10～ 事業概要説明

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター 主幹研究員 吉永 武史 氏

14:45～ 休憩

15:00～ 講演 「行動することで自分を変え、世界を変える！」

講師：初瀬 勇輔 氏（北京パラリンピック 視覚障がい者柔道 90kg 級出場）

16:30～ 諸連絡

16:40～ 閉会挨拶

開会にあたり、熊本県教育庁教育指導局体育保健課長の西村浩二氏より、「2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の成功に向けて、各学校のオリンピック・パラリンピック教育を充実させ、大会後も生涯スポーツとして子どもたちに残っていくような取り組みを展開していきたい」という旨のご挨拶がありました。

次に、本センター主幹研究員の吉永武史より、事業概要の説明や、他地域におけるオリンピック・パラリンピック教育の事例紹介がありました。事例紹介では、新学習指導要領に対応したカリキュラムマネジメントの工夫が述べられました。また、具体的事例として、オリパラ新聞の作成を通じた「する・みる・支える・知る」といった多様な関わり方と関連づけた実践や、地域の施設を活用した体験活動によってオリンピックを契機とした街づくりについて学習を進めた実践、ならびに、海外のパラリンピック選手との交流を通じた学習を取り入れた実践等、様々な例が紹介されました。

その後、パラリンピアン初瀬勇輔氏による「行動することで自分を変え、世界を変える！」という演題の講演がありました。初瀬氏は、高校卒業後に緑内障を発症し、大学在学中には、左右両方の視野の大半が失われて

しまったとのこと。手術をしても視力が戻ることはなく、今まで通りの生活を送ることができない苦しみや、周囲から取り残されていくような計り知れない不安・悲しみに苛まれ、絶望の淵に立たされていたといいます。そのような中、入院生活を始終支えてくれた友人の優しさに心を動かされ、支えてくれる人たちのために一歩踏み出す勇気を出していったそうです。その結果、少しずつ前を向くことができるようになり、視覚障がいがあっても授業や試験等を受けられるよう、在籍する大学何度も掛け合い、障がいを抱えながらも無事に大学を卒業されました。また、高校生のときに柔道部に所属していた経験を活かし、視覚障がい者柔道への挑戦も決意されました。すると、高校時代の下積みの成果もあり、出場した大会ですぐに優勝を果たし、後に北京パラリンピックに出場もされました。前日までは、ただの障がい者という思いだったのが、優勝経験によって大きな自信を手にすることができ、どのような状況でも行動することで何かを変えていけるということを学んだと述べられました。ご自身の経験から、視力を失って初めて多くの障害が街に存在していることに気付いたため、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会は、様々な障がいを抱える人に対応できるよう、日本を変えるチャンスにしたい、多様性を受け入れることが当たり前となる社会を実現したいというメッセージを頂きました。

閉会の挨拶では、熊本市教育委員会健康教育課教育審議員の香山悟氏から、熊本地震後には、多くのアスリートが県内を訪問し講演をしてくれたことで、たくさんの勇気をもたらったとのことが話されました。そして、今後もスポーツの持つ力を多くの子どもたちへ伝えていきたいという言葉を頂きました。



西村 浩二 氏



香山 悟 氏



初瀬 勇輔 氏



会場の様子



初瀬氏が持参された金メダルと、メダルをご覧になる先生方



記念撮影